

愛育班の活動実態に関する研究 ー自主性アセスメント調査ー

母子保健研究部 斉藤 進
母子愛育会愛育推進部 大場 エミ

要約

地域の重要性が再認識され、地域組織活動の活性化、強化が期待されている。地域組織活動の育成支援には、アセスメントと育成計画が重要である。アセスメントの方法として、自主性評価尺度を用いた自主性のレベルを計量し、活動実態との関係について明らかにすることを目的に本研究を行った。調査は、全国の154市町村の552単位愛育班愛育班を対象に、愛育班組織調査の一部として自主性評価尺度を用いて実施した。

その結果、自主性のレベルおよび良好な活動状況が明らかになった。また活動状況と自主性の間には関連がみられた。自主性評価尺度の使用については課題はあるものの、活動評価の指針として組織育成に有用であることが示唆された。

キーワード 地域組織、愛育班、自主性、評価尺度、アセスメント

A study of the efforts of Aiiku-Han (organizations to promote community health): Using an instrument to assess initiative

Susumu SAITO, Emi OHBA

[Abstract] There is a renewed appreciation of the importance of community. Accordingly, efforts of community organizations should be encouraged and enhanced. Assessment and a training plan are crucial to efforts by community organizations to provide child-raising assistance. This study used an instrument to measure the level of initiative in order to reveal the relationship between that initiative and efforts by community organizations. The instrument to assess initiative was used to survey 552 Aiiku-Han organizations (organizations to promote community health) in 154 municipalities nationwide.

Survey results revealed the level of initiative and considerable efforts by community organizations. Results also revealed an association between efforts and initiative. There were issues with use of the instrument to assess initiative, but results suggested that it be used in organizational training as a guide to efforts by community organizations.

[Keywords] community organizations, Aiiku-Han, instrument to assess initiative, assessment

I. 目的

地域の重要性が再認識され、地域組織活動の活性化と強化が期待されている。母子保健領域を中心とした愛育班の活動は、地域組織活動の中でも長い歴史を持っているが、他組織との連携や自主的な活動展開などが課題となっている^{1),2),3),4)}。愛育班の育成において、現状をアセスメントし育成計画を立て、支援することが必要である。アセスメントや評価のツールとして、「地域組織活動のリーダー行動尺度」^{5),6),7)}や「活動成果指標尺度」を用いたアセスメントを試み⁸⁾、次いで活動課題のひとつである行政依存から自主的活動への移行や自主的活動状況を把握する「自主性評価尺度」を開発した⁹⁾。自主的活動に対する行政の期待は大きい、全国愛育班の自主性のレベルについて計量したデータはなく、地域や組織間の比較、また変化の状況を把握することは難しかった。そこで、本研究では、アセスメントにおける尺度利用の可能性と全国愛育班の自主性の状況、自主性と関連する活動について明らかにすることを目的にした。

II. 方法

本会愛育推進部では、「愛育班組織調査」を毎年実施しており、本調査とあわせて筆者らが開発した「自主性評価尺度」を使用し調査を実施した。対象は全国の愛育班とし、回答はその愛育班担当の保健師とし、愛育班のある都道府県の母子保健主管課を通じて回答を依頼した。本調査は平成24年6月30日現在の状況について、①県内の状況一覧表、②単位愛育班報告書、③愛育班休会及び解散報告書、④市町村合併に伴う愛育班の状況報告書、⑤市町村愛育班の活動状況について、⑥自主性評価尺度チェックリスト、で構成し、調査期間は平成24年7月～8月に実施した。

分析は、⑥「自主性評価尺度チェックリスト」(別表)のデータを用いた。本調査票は、自主性評価尺度22項目のほか、活動実態として分班長会議(開催状況、テーマの提示、発言状況、出席率等)、班員会議、声かけ活動と組織運営の状況として総会の開催、事業、予算決算、規約などの質問項目で構成されている。自主性評価尺度の使用可能性については、高次因子分析によるモデル適合度を算出し、信頼性についてはクロンバックのアルファ係数を算出し、尺度の有効性を検討した。自主性評価尺度については、総合点と5つの下位尺度の得点(平均値)を算出し、活動状況と自主性の関係について、平均値の差の検定(t検定、一元配置分散分析)により検討を行った。分析はSPSS(Ver.18)とAMOS(Ver.5)を用いた。

III. 結果

愛育班のある154市町村の552単位愛育班のうち533組織から回答(96.6%)があり、自主性評価尺度チェックリストは329組織(59.6%)から回収された。尺度項目に欠損ない304ケースを分析対象とした。

1. 活動実態

分班長会議の開催状況は、「毎月」(37.6%)が最も高く、次いで「2ヶ月に1回」(18.8%)、「3～4ヶ月に1回」(15.5%)、「開催なし」(15.2%)、「不定期」(12.9%)の順であった(表1)。テーマを提示して開催している組織(89.8%)と役割分担をして運営している組織(89.8%)が9割を占め、全員発言している(75.2%)ところが4分の3を占めていた(表1)。会議の出席状況は、かについて、「ほぼ全員出席」(66.5%)と「半分以上出席」(31.5%)がほとんどを占め、「欠席者が多い」(2.0%)は低かった(表1)。開催時間は、「守られている」(97.2%)が非常に高かった(表1)。

班員会議の開催については、「開催している」(41.7%)が4割、次いで「ほとんど開催なし」(36.3%)、「一部で開催」(22.0%)の順で、声かけ活動については「ほぼ全体で声かけ活動を行っている」(66.9%)が7割弱を占め、「一部の対象、地域で声かけ活動を行っている」(27.4%)とあわせて9割を越え、「ほとんど行っていない」(5.7%)は低かった(表1)。

組織運営では、ほとんどの組織が「総会を開催している」(91.4%)おり、「事業評価あり」(77.4%)も高く、また、「評価をもとに計画」(86.1%)が高かった(表1)。「決算書」(80.9%)と「予算書」(78.9%)ともに自分たちで作成し、規約についても「確認している」(82.4%)が高かった(表1)。

2. 自主性評価尺度の有効性と得点

自主性評価尺度の有効性については、高次因子分析を行いパス図(図1)を作成した。モデルの適合度はRMSEA(.077)、GFI(.845)、CFI(.898)で、十分な適合度があるとはいえなかった。信頼性についてのクロンバックのアルファ係数は、全体(.94)で、下位尺度では「プランニング」(.88)、「積極的活動」(.86)、「意見表明」(.73)、「調整管理」(.73)、「自己評価」(.83)で良好な数値を示した(表2)。

自主性評価尺度総合は、3.8(SD 0.54)で、下位尺度については、「調整管理」4.3(SD 0.67)、「積極的活動」3.8(SD 0.53)、「意見表明」3.8(SD 0.65)「プランニング」3.6(SD 0.67)、「自己評価」3.5(SD 0.76)の順で(表3)、得点分布を図2、3に示した。調整管理(4.3)と積極的活動(3.8)・意見表明(3.8)では有意な差($p<.001$)が見られ、また積極的活動(3.8)・意見表明(3.8)とプランニング(3.6)でも有意な差($p<.001$)

見られたが、プランニング (3.6) と自己評価 (3.5) では有意な差は見られなかった (表 3)。

3. 活動実態と自主性評価尺度得点

(1) 分班長会議

分班長会議の開催状況と自主性評価尺度得点について、開催状況と得点には有意な関係が見られ ($p < .001$)、開催頻度が高くなると得点が高くなる傾向が見られた。その後の検定では「毎月」と「3～4 ヶ月に 1 回」、「不定期」、「開催なし」に有意な差が見られた。テーマの提示の有無では「提示あり」(3.9) が有意に高く ($p < .001$)、役割分担の有無では「あり」(3.9) が高く ($p < .001$)、「全員発言」では、「はい」(3.9) が有意に高かった ($p < .001$)。会議の出席状況は、「ほぼ全員出席」(3.9) が有意に高かった ($p < .05$)。会議運営が良好である方が得点が高い傾向を示した (表 1)。

(2) 班員会議と声かけ活動

班員会議の開催状況では、「開催している」(3.9)、「一部で開催」(3.9) が「ほとんど開催なし」(3.6) に比べ有意に高かった ($p < .001$)。声かけ活動では、全体で有意な差が見られ ($p < .05$)、その後の検定では「行っていない」(3.5) 愛育班と「全体で行っている」(3.8)、「一部の対象、地域で行っている」(3.8) のグループ間に有意な差が見られた ($p < .05$) (表 1)。

(3) 組織運営

総会について、「開催している」(3.8) が有意に高く ($p < .001$)、事業評価の有無でも「あり」(3.9) が有意に高かった ($p < .001$)。「評価をもとに事業計画」(3.9) は、「していな」(3.5) に比べ有意に高く ($p < .001$)、「決算書を自分たちで作成」(3.9)、「予算書自分たちで作成」(3.9) する愛育班は「していない」ところに比べ有意に高かった ($p < .001$)。また、規約の確認について、「確認している」(3.9) は「していない」(3.5) にくらべて有意に高く ($p < .001$)、組織体制の良好性と自主性に関連がみられた (表 1)。

IV. 考察

1. 自主性評価尺度の有効性

高次因子分析のパス図によるモデルの適合度は、RMSEA (.077)、GFI (.845)、CFI (.898) で、適合度は高くないがグレーゾーン^{10),11),12)}であった。信頼性についてのクロンバックのアルファ係数は、全体 (.94) 下位尺度の「プランニング」(.88)、「積極的活動」(.86)、「意見表明」(.73)、「調整管理」(.73)、「自己評価」(.83) とともに良好な数値を示しており、課題はあるものの尺度として使用可能と判断した。自主性の状

況について、その客観的な指針は存在せず、組織育成や活動の評価が難しいため、本尺度の数値を使用することは、活動の活性化と強化のために有効と考えられる。

また、本自主性評価尺度を使用した評価を継続することで、活動のアセスメントや育成の客観的な評価として使用可能となる。これは、活動の成果を見える化するひとつの方法として有効であると思われる。

2. 全国愛育班の活動と自主性の状況

「毎月分班長会議開催」(37.6%) が 4 割を占め、「開催なし」(15.2%) は低かった。また、運営について、テーマの提示、役割分担、全員発言、出席率、時間の厳守などは 6～9 割と高く、愛育班の基本活動である話し合い学習 (分班長会議) は、高い水準で行われている様子うかがわれる。班員会議については、「開催している」(41.7%) は 4 割程度で、「ほとんど開催なし」(36.3%) と近い比率を示しており、十分行われていない。また、「声かけ活動」(66.9%) は 7 割で実施されており、愛育班活動の特徴が現れている。しかし、班員会議の未実施の状況から、話し合いと声かけ活動の連続性に課題があると考えられ、育成計画を再考することが必要と思われる。

組織運営では、「総会」(91.4%)、「事業評価」(77.4%)、「評価をもとに計画」(86.1%)、「決算書作成」(80.9%)、「予算書作成」(78.9%)、「規約確認」(82.4%) と 8～9 割と高率を示し、問題はみられない。今後は内容など質の向上について検討し、支援をする必要がある。しかし、全体的に良好な活動状況が推測され、今後の活動に期待したい。

全国の愛育班の自主性は、自主性評価尺度総合で見ると 3.8 であった。下位尺度の平均値は「プランニング」3.6、「積極的活動」3.8、「意見表明」3.8、「調整管理」4.3、「自己評価」3.5 で、尺度作成時⁹⁾ と比べ「積極的活動」を除く全ての値は有意に高くなっていた (表 2)。尺度作成時に比べ、本部から県庁を通じた調査のため、高い傾向を示したと考えられる。下位尺度の順位は、尺度作成時と同様「調整管理」、「積極的活動」、「意見表明」、「プランニング」、「自己評価」の順であった。この調整管理は、「出欠の有無の連絡がとれる」、「自分たちで連絡調整できる」、「予算管理が自分たちでできる」で構成されており、自己評価は「自ら課題を出すことができる」、「自分たちの問題を言える」で構成されており、調整管理より難しい内容となっていることから得点の差が出たと考えられる。尺度の数値の高低のほか、このように下位尺度を構成する質問を参考に、活動の課題を具体化することが必要と思われる。

3. 活動状況と自主性評価尺度得点

愛育班活動の重要な柱である分班長会議の状況と自主性評価尺度の値との関係をみると、開催状況の頻度

($p<.001$)、テーマの提示 ($p<.001$)、役割分担 ($p<.001$)、全員の発言 ($p<.001$) において有意な差が見られたことから、分班長会議の運営が自主性の重要なポイントと考えられる。従って、活動・運営のアセスメント(表4)¹³⁾などにより、状況を見ることで自主性のレベルを推計することが可能と思われる。しかし、数値化して変化を計り、評価するためには尺度を使用することが適切だろう。会議の出席率 ($p<.05$) でも有意な差がみられるが、時間厳守では有意な差はなかった。しかし時間厳守は、ほとんどの愛育班(97%)が守られていると回答しているため、指標とはならないと考えられる。従って、分班長会議の運営が良好な場合、つまり全員が意見を述べ、意見を聞く雰囲気など、楽しい会議が行われていれば、自主性が高い活動を展開していると推測できる。

班員会議の開催では、「ほとんど開催なし」(3.6)と「開催している」(3.9)、「一部で開催」(3.9)において有意な差がみられており、開催の有無と関係が予測される。また、声かけ活動の有無では、「行っていない」(3.5)と「全体で行っている」(3.8)、「一部の対象、地域で行っている」(3.8)において有意な差がみられたことから、全体として声かけ活動を行っているかどうかに関係してくる。

総会、事業評価、評価をもとに事業計画、決算書を自分たちで作成、予算書自分たちで作成、規約の確認の有無において有意な差がみられた($p<.001$)ことから、組織運営の原則の重要性が示唆される。運営の基本を自ら行うことができるように指導、援助していくことが大切だと思われる。

表4 活動・運営のアセスメント¹³⁾

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 会議の運営で、役割分担がされていますか(司会・進行、記録など) 2. 議題が決められていますか 3. 参加者全員が意見を述べていますか(話し合い・ディスカッションが出来ますか) 4. 話を聞く雰囲気がありますか 5. 和やかな雰囲気がありますか 6. 合意形成は可能ですか(議題について意見を交換し、合意ができるか) |
|--|

V. 結論

自主性評価尺度については、尺度としての検討や使用方法、質問項目の検討、簡易化など有用な評価尺度としての課題はあるが、全国愛育班の自主性の状況(全国平

均値)が明らかになったため、ひとつの指針として活動の評価に活用することが可能である。今後は、自主性の程度と活動内容との関係について詳細な分析が必要と思われる。また、本尺度を含めた、活動評価と組織育成のあり方についての検討が必要である。

謝辞:調査にご協力くださった関係者の皆様に感謝します。

【文献】

1. 斉藤進他、保健福祉における住民組織活動の実態と連携に関する研究(1)ー愛育班全国調査からー、日本子ども家庭総合研究所紀要 第37集、2001、pp145-158
2. 斉藤進他、保健福祉における住民組織活動の実態と連携に関する研究(2)ー愛育班活動における他組織との連携実態ー、日本子ども家庭総合研究所紀要 第38集、2002、pp189-202
3. 斉藤進他、保健福祉における住民組織活動の実態と連携に関する研究(3)、日本子ども家庭総合研究所紀要 第39集、2003、pp197-214、子ども家庭総合研究所紀要 第38集、2002、pp189-202
4. 斉藤進他、地域組織活動の活性化に関する一考察ー愛育班活動のアセスメントの試みー、日本子ども家庭総合研究所紀要 第43集、2007、pp275-280
5. 島内憲夫、小山修、斉藤進、小野田薫、市村久美子、「母子保健のための地域組織活動の活性化と強化に関する研究ーその3.地域組織活動の強化法の開発ー」、厚生省心身障害研究「高齢化社会を迎えるに当たっての母子保健事業策定に関する研究」平成3年度研究報告書(主任研究者 平山宗宏)、1992、pp.449-486
6. 斉藤進、地域組織活動におけるリーダーシップに関する研究(1)、日本総合愛育研究所紀要 第33集、1997、pp290-293
7. 斉藤進、地域組織活動におけるリーダーシップに関する研究(2)、日本子ども家庭総合研究所紀要 第35集、1999、pp233-238
8. 斉藤進他、地域組織活動の評価法に関する研究(3)、日本子ども家庭総合研究所紀要 第42集、2006、pp127-145
9. 斉藤進他、地域の子育て資源に関する研究(2)ー愛育班の自主性評価尺度の開発ー、日本子ども家庭総合研究所紀要 第47集、2011、pp345-352
10. 田部井明美、SPSS完全活用法 共分散構造分析(AMOS)によるアンケート処理、東京図書、138-148、2001
11. 狩野裕、グラフィカル多変量解析、現代数学社、142-153、1997
12. 豊田秀樹・前田忠彦・柳井晴夫、原因を探る統計学、講談社、174-177、1992
13. 斉藤進、「地区組織支援のためのアセスメントと評価」、『知ろう、活かそう 地区組織～コミュニティワークの実際～』母子愛育会編、2011、pp139-171

	度数	%	自主性得点	SD	検定結果※1	その後の検定 (0.05水準で有意) ※2		
【分班長会議】								
開催状況 (n=303)								
毎月	114	37.6	4.0	.46	***			
2ヶ月に1回	57	18.8	3.9	.56				
3～4ヶ月に1回	47	15.5	3.7	.52				
不定期	39	12.9	3.6	.57				
開催なし	46	15.2	3.5	.53				
テーマの提示 (n=254)								
あり	228	89.8	3.9	.52	***			
なし	26	10.2	3.5	.54				
役割分担 (n=255)								
あり	229	89.8	3.9	.51	***			
なし	26	10.2	3.5	.57				
全員発言 (n=250)								
はい	188	75.2	3.9	.49	***			
いいえ	62	24.8	3.6	.56				
出席率 (n=254)								
ほぼ全員出席	169	66.5	3.9	.54	*			
半分以上出席	80	31.5	3.7	.48				
欠席者が多い	5	2.0	3.5	.34				
時間の厳守 (n=253)								
守られている	246	97.2	3.9	.53	n.s.			
いない	7	2.8	3.6	.36				
【班員会議と声かけ活動】								
班員会議開催 (n=295)								
開催している	123	41.7	3.9	.60	***			
一部で開催	65	22.0	3.9	.48				
ほとんど開催なし	107	36.3	3.6	.46				
声かけ活動 (n=299)								
ほぼ全体で声かけ活動を行っている	200	66.9	3.8	.51	*			
一部の対象、地域で声かけ活動を行っている	82	27.4	3.8	.61				
ほとんど行っていない	17	5.7	3.5	.38				
【組織運営】								
総会 (n=304)								
開催している	278	91.4	3.8	.52	***			
いない	26	8.6	3.4	.54				
事業評価 (n=301)								
あり	233	77.4	3.9	.51	***			
なし	68	22.6	3.5	.53				
事業計画 (n=303)								
評価をもとに計画している	261	86.1	3.9	.52	***			
していない	42	13.9	3.5	.56				
決算書 (n=304)								
自分たちで作成している	246	80.9	3.9	.48	***			
していない	58	19.1	3.4	.56				
予算書 (n=304)								
自分たちで作成している	240	78.9	3.9	.49	***			
していない	64	21.1	3.4	.55				
規約の確認 (n=301)								
確認している	248	82.4	3.9	.52	***			
していない	53	17.6	3.5	.51				
*: p<.05 ** : p<.01 *** : p<.001 n.s. : 有意差なし			※1 : t検定、一元対置分散分析			※2 Tukey法		

	N	平均	SD	α係数	尺度作成時
自主性評価尺度総合点	304	3.81	0.54	0.94	3.6
下位尺度					
プランニング	304	3.6	0.67	0.88	3.2
積極的活動	304	3.8	0.53	0.86	3.8
意見表明	304	3.8	0.65	0.73	3.6
調整管理	304	4.3	0.67	0.73	4.2
自己評価	304	3.5	0.76	0.83	3.2

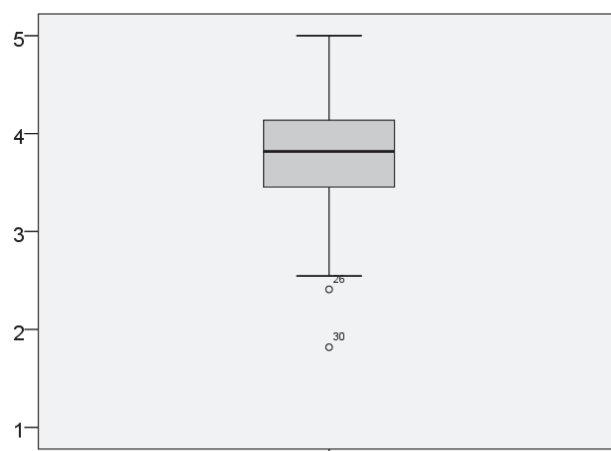
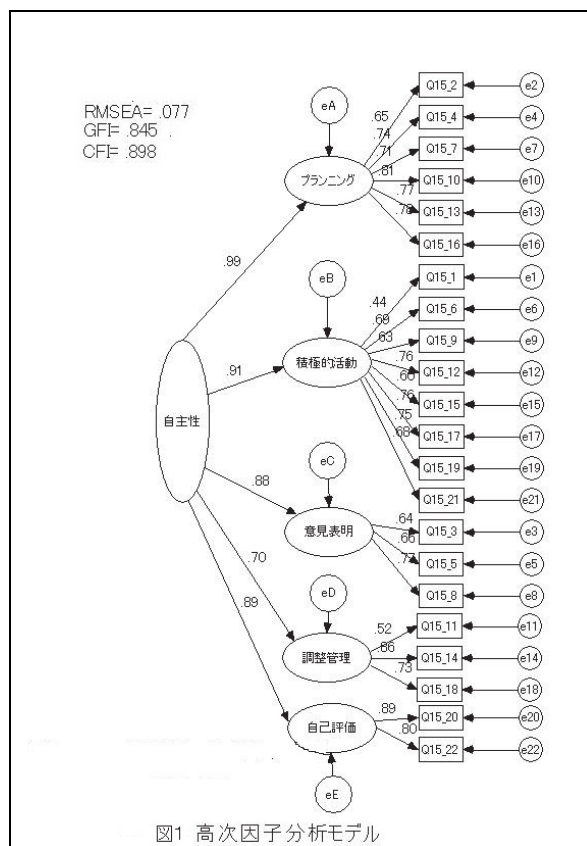


図2 自主性評価尺度総合点

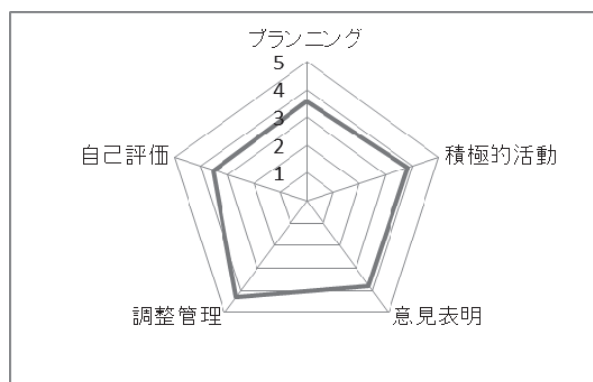


図3 自主性評価尺度(下位尺度)の得点分布

調査報告書⑥

自主性評価尺度チェックリスト

Q1 分班長会議開催状況は

1 毎月 2 2ヶ月に1回 3 3～4ヶ月に1回 4 不定期

5 開催なし →Q7へ

Q2 分班長会議で議題（テーマ）を提示していますか

1 はい 2 いいえ

Q3 分班長会議では、司会、記録など役割分担をして進行していますか

1 はい 2 いいえ

Q4 分班長会議で参加者全員が必ず発言するようにしていますか

1 はい 2 いいえ

Q5 分班長会議の出席率は

1 ほぼ全員出席 2 半分以上出席 3 欠席者が多い

Q6 分班長会議の開始時間、終了時間が守られていますか

1 はい 2 いいえ

Q7 班員会議は

1 開催している 2 一部で開催 3 ほとんど開催なし

Q8 声かけ活動をしていますか

1 ほぼ全体で声かけ活動を行っている
2 一部の対象、地域で声かけ活動を行っている
3 ほとんど行っていない

Q9 総会を開催していますか

1 はい 2 いいえ

Q10 事業報告作成時に事業の評価をしていますか

1 はい 2 いいえ

Q11 事業計画は前年度事業の評価をもとに計画していますか

1 はい 2 いいえ

Q12 決算書を自分たち（愛育班役員）で作成していますか

1 はい 2 いいえ

Q13 予算案を自分たち（愛育班役員）で作成していますか

1 はい 2 いいえ

Q14 規約の確認を行っていますか

1 はい 2 いいえ

Q15 自主性評価尺度（該当する欄に○印を）

	評価内容	5よく当てはまる	4まあ当てはまる	3どちらとも言えない	2あまり当てはまらない	1全く当てはまらない
1	地域の現状を知っている					
2	事前に会から案が出てくる					
3	自分の地域で出た問題を会議で伝えら					
4	自分たちで方向性や計画を決められる					
5	要望が出てくる					
6	やりたいことがある					
7	活動に具体的な提案ができる					
8	活発な意見交換ができる					
9	自分の言葉で住民に活動内容を伝える					
10	計画を立て、課題がわかり、評価して、					
11	出欠の有無の連絡がとれる					
12	やる気がある					
13	自分たちの活動を自分たちで評価でき					
14	自分たちで連絡調整できる					
15	PHNに発信できる					
16	次の動きがみえる					
17	活動に対して前向き					
18	予算管理が自分たちでできる					
19	楽しい					
20	自ら課題を出すことができる					
21	自分たちの活動をPRできる					
22	自分たちの問題を言える					